

「日本のアニメとアメリカのアニメ、その違いは何？」

私は最近、映画の中で最も奇想天外な芸術表現にハマっています。それはアニメ映画です。アニメ映画と言いますと、代表的な国は、やはりアメリカと日本ではないかと思えます。アメリカのアニメ映画なら、みなさんご存じ、ディズニーの『アナと雪の女王』やマーベルコミックスの『ビッグ・ヒーロー・シックス』などの名作があります。日本の名作と言いますと、やはり宮崎駿監督が率いるジブリ映画ではないでしょうか。

では、アニメを代表するこの二つの国の違いは、一体、なんでしょうか。

みなさんは、なんだと思えますか？

「ハイハイハイー！ 絵の描き方が違う!!」

って、誰でもわかるような簡単なことじゃなくて、私は、もっと深みのあるお話をしたいと思えます。

まず初めに、アニメの世界観についてです。アメリカの代表、ディズニー映画は、現実にはありえないファンタジーの世界を舞台にして、物語を作っています。例えば、『アナと雪の女王』や『塔の上のラプンツェル』など、普通の女の子には届かない、王女様やお姫さまの住む世界が舞台となっています。しかし、非現実の仮想世界では、共感や理解を得ることはなかなか難しい。まあ、普段から、お城や海の中で生活する人はいませんからね。共感できなくても当たり前です。

それに対して、日本のアニメ映画は、もしかしたら見ている自分にも実際に起こるかも？という幻想を抱くことができます。例えばあの有名な『となりのトトロ』は普通の小学生の姉妹のお話だし、それから『時をかける少女』も、普通の女子高生の出来事です。見ているとつい自分の高校生活を思い出してしまいます。つまり、それは現実世界を基礎として、その上にファンタジーの要素を加えるということなのではないでしょうか。

次に、アニメの主人公について、お話しします。

今、お話しした通り、アメリカのアニメは仮想世界に描かれた物語が多いです。だから、主人公も、例えば、超能力や、魔法を使う主人公がよく登場します。でも、それは観客にはなかなか共感できないキャラだと思いませんか？

それに対して、日本のアニメは、主人公に共感できる場合が多い。また、他の登場人物の態度や、それに対する主人公自身の態度も違います。

例えば、『アナと雪の女王』の主人公エルサは、最初、必死に人目から逃げようとしません。そういう状態から、あることをきっかけに人前で魔法を見せるのを怖がらなくなりますが、エルサが怖がらなくなったのは、彼女が「真実の愛」に気づいて妹アナの命を救ったからです。

しかし、日本のアニメ映画の中では、そういう話より、主人公が自ら努力し、自分からアプローチして、周りの人々に信用されることが大事なんじゃないか。例えば、みんなが知ってる国民的アニメ「ナルト」です。ナルトは、幼い頃からずっとみんなに嫌われていた、それでも、諦めなかった。あらゆる方法を使って、自分から他人にアプローチして、周りの人から信用されるように頑張りました。その結果、彼は仲間の大切さを知り、そしてみんなが認める英雄になりました。

ここに、日本人とアメリカ人の考え方の違いがあると私は思います。

私は、実際に、日本で生活して、日本人に接してみて、黙々と頑張ってる人が大勢いることに気づきました。私が知り合った日本の友達も、夢を叶えるために、自分の領域の中でず

っと頑張っていました。親や友達に理解されず、ただただ夢を目指して頑張って、その結果、なんとか成果をあげ、周りから認められるようになったのです。

最初は認められなくても、頑張れば、きっと願いが叶うって、私は日本の生活を通して実感できました。まるで自分がアニメ映画の中にいるみたいに。